

東川スタイル

執筆者 井上 俊彦（合同会社部ランドスケープ CEO）

クールジャパン
プロデューサー
サーコラム

CJPF

COOL JAPAN Public-private partnership platform

クールジャパン官民連携プラットフォーム

たった10年で大変革を成し遂げた町

私が日頃の活動において、思考の軸に据えているのが、東川町の思考です。表面的な知名度向上や観光振興をKPIに据えず、「地元住民の生活が輝く」ことから全くぶれない政策、派手さは無くとも住民が納得する街づくりがここにはあります。

東川町から初めてご相談を頂いたのは、10余年前の事。当時の東川町は、旭川市や富良野・美瑛に挟まれ、北海道民ですら、その所在を認識出来ないような名も無き町でした。「東川町は、実はとても良い街なんです。」当時、課長職だった菊地町長は、基盤産業である農業（稲作）や町の若者の挑戦について、熱くご説明くださいました。昨今、注目をされている「東川小学校」「せんとびゅあ1&II（図書館等）」「町立日本語学校」「KAGUの家（隈研吾さんプロデュースのサテライトオフィス）」はもちろん、カフェも疎である、正に「米と水だけの街」でした。

ライフスタイルを定義する町

その後、東川町とは、いくつかのお仕事をさせて頂く事になりましたが、その全てにおいて、彼らが最も大事にしており、事業を推進する際に度々、議論される判断基準があります。「それは、東川町らしいか？」逆に「費用対効果」や「知名度向上」

「観光PR」という様な言葉は、ほぼ出てきません。後に松岡前町長が「適疎のまち」と称しますが、拡大を目指さず、適度な規模感で適度な充実を目指す姿勢は、今流で言うOKRを10年前から実践していたのだと理解しています。その意味で、現町長は、如何に今の加熱をモデレートにするかが悩みであると思います。

「東川町らしさ」この暗黙知を形式知化したのが、2016年に発売された書籍「東川スタイル～人口8000人のまちが共創する未来の価値基準～」です。現町長は、発売開始にあたり「これからの東川町の進むべき道の指針になる。」と話してくれました。これにより、官民を問わず町民全員が「自分達が何を大切に、何を意識して生きていけば良いのか？」を心に刻む事ができたのでしょうか。そしてこれを契機にして、「東川スタイル」というライフスタイルに共感する国内外の同志が移住し、関係を持つ形で、現在の東川町に成長していきます。東川小学校を筆頭に前述の各種施設やアンテナショップ「東川ミーツ」や「東川スタイルカフェ」等は、全てこの1冊の書籍に記載されている内容を体現化する施設です。そして特筆すべきは、これらの施設全てが地域住民の日常生活の場であり、決して観光客向けの施設では無いという事です。万人を対象に拡大政策を取らず、共感者との和を築きあげていく姿勢は、行政のみならず民間マーケティングでも参考になります。



【東川町を代表する田園風景】

クリエイターとの交流が日常

東川町を象徴する事業に「写真甲子園（全国高等学校写真選手権大会）」があります。1994年に初まったこの大会は、毎年7月に東川町で実施され、参加生徒は、東川町民の家にホームステイします。私もアジアの若手映像製作者のワークショップを東川町で開催したことがあります。写真を筆頭に、「映像」「家具を中心とするデザイン」「陶芸」等、クリエイターと町民との交流が、日常的に実施されているのです。交流したクリエイターは、ふるさと納税をしたり、外国人クリエイターが町立日本語学校に入学したり、移住を決めたりと様々な形で、その関係性は一過性に終わらないのが「東川町らしさ」です。

この影響により、必然的に町民のクリエイティブ力が向上し、クリエイティブ産業企業が町内で起業され、町内飲食店や観光地の各種広報ツールが充実し、それにまた共感の輪が生まれるという循環が生まれているのです。この様な形で「東川らしさ」の発信が、官民を問わず一体感を持って、お洒落に、常時なされているのです。



弊社が招聘した、

「外国人クリエイターワークショップ」
のーコマ。

地元Caféオーナー（移住者）と、
「東川の素晴らしさ」について、
共感の輪が広がっていきます。

Infomation

東川町では、ふるさと納税の事を「株主制度」と称しています。そして毎年「株主総会」が開催され、町民も町外在住者も無く、事業報告がなされます。また東川町に婚姻届を出すと、町外居住者であっても、無料で記念撮影のプレゼントが受けられ、複写式婚姻届の1部をご自身の手元に残すことが可能です。更に原本は、メッセージと共に東川文化ギャラリーに保存されます。菊地町長は、かつて「官主導でも民主導でも無く、やれる人間がやれば良い。役場職員だって一町民ですから」と語っていました。こういったフラットな意識も「東川町らしさ」のひとつです。是非、皆様も「東川スタイル」を体験されてみては、如何でしょうか？

東川町株主制度ホームページ

<https://higashikawa-town.jp/kabunushi>

東川町－写真の町－ホームページ

<https://town.higashikawa.hokkaido.jp/special/marriage-registration/>